

# 「認知症の本人が書いた本」ブックフェア開催のすすめ

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ

今、「認知症の本人が書いた本」が静かなブームになっています。

今年だけでも7冊の本が出版されました。

たくさんの認知症と診断された本人が、自ら筆を執って、「専門家」や「家族」では語ることのできないメッセージを次々と発信しています。そして、認知症と診断されたばかりの人やその家族に、広く受け入れられているのです。

しかし、今なお多くの人が「認知症＝何もわからない」という古い見方にとらわれ、こうした新しい動きに気づかずにいます。私たちが提案するのは、街の本屋さんの中に、こうした「新しい風」の到来を知らせる一角を作ることです。著者たちの顔写真をあしらった本の数々を並べ、お店に来た人たちがその前に立ち止まり、本を手にとってもらいたいと思っています。

## 1. 「認知症の本人が書いた本」が静かなブームに



←今年だけでも7冊の「認知症の本人が書いた本」が出版されました。

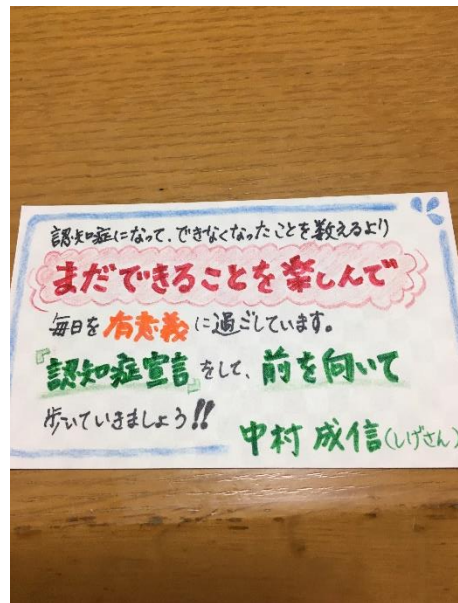
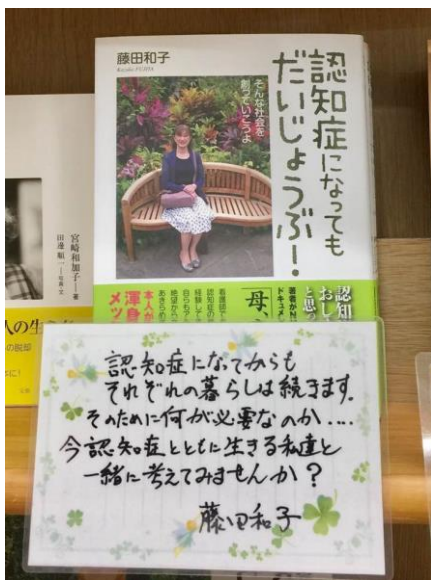
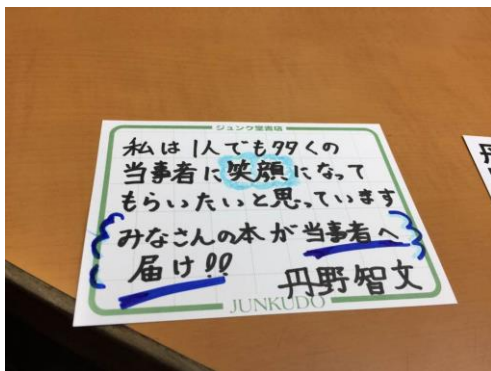
背景には、認知症の人の数が増えているという事実があります。厚労省の推計で600万人にせまり、予備群も含めると1000万人を超えます。さらに診断技術の進歩で早期診断が広がり、「自分の認知症と向き合いながら人生を歩んでいく人」が増え続けているのです。しかし、多くの人が、医療や介護の専門家の告知や説明を聞くと、「人生が終わった」と受け止め、「絶望」した経験を持っていました。

「本人が書いた本」が語るのは、従来の「認知症の本」とはちょっと違った内容です。診断後、病状が進んでも、10年、20年と人生を楽しんだ自分自身の経験と、そのため何が役だったかを書いているのです。「認知症＝人生の終わり」ではなく、「認知症になった後にも人生が続く」ことを事実でもって示し、絶望から希望へと導くのです。

単なる「感動の書」ではなく、「実用書」として読まれているのです。

## 2. 並べる本のリストがあります

私達では、ブックフェアを通じて読んでもらいたい本のリストや、著者自身や本作りに関わった人たちによるPOPを作成しています。



↑→  
著者直筆のPOPの数々をご用意しています。

これらを活用しながら、貴店ならではの「認知症の本人が書いた本ブックフェア」の本棚を作っていたいただきたいのです。

私達も本棚にお客さんを導くための話題作りや情報拡散など、できる限り協力させていただきます。

### 3. これまでの開催実績

すでにいくつかの書店で、こうしたブックフェアが実行され、売り上げを伸ばしています。



←最初は、ジュンク堂池袋本店6階の医学書コーナーの「認知症当事者の語り～ありのままの声で～」。

9月1日から1か月の予定でしたが、好評につき今も延長中です。

その次は、紀伊國屋新宿本店5階の

「認知症の私たちが書きました。あななに伝えたいこと、知ってほしいこと」。10月7日から開催中です。

担当者から「正直なところ、（本が）動くと思っていませんでした。こういうふうにフェアにすると、企画されたみなさんの宣伝効果もあって、お客さんも見に来てくれるんだなと思いました。土日に夫婦で来てくれたりとか。思ったよりも、当事者の本を読みたい方がいるんだなと思いました。」といったお話もうかがっています。

風は吹き始めたばかりで、まだまだ強く大きくなると思っています。

ともに協力しあいながら、街に新しい風を吹かせましょう。

このブックフェアを通して、眠っているニーズを引き出し、本当に必要な人に本を届けていただきたいと願っています。